

## 第一回 地域サポート学校薬剤師研修会

柏市学校薬剤師会支部長  
大塚昌孝

今年度より、地域学校薬剤師サポート事業として千葉県学校薬剤師会で地域支部単位での研修会をバックアップする事業が始まりました。休日になかなか千葉県薬剤師会会議室まで研修に参加できない方もおりますので、何とかしなくてはとの思いから提案され、研修会場費や講師謝礼、配布物・研修シールの手配など県の学校薬剤師会が負担してくれています。第一弾として9月4日（水）午後7時30分より野田・松戸・我孫子・柏支部合同の学校薬剤師研修会がアミュゼ柏にて開催されました。平日の夜にもかかわらず51名の参加者があり、皆さんの熱心さは本当に素晴らしいと感じました。

最初に柏市保健所生活衛生課 専門監 岩崎とし子様より「保健所における給食室検査について」最近の食中毒の傾向や保健所が行う検査の概略と検査時にチェックする点や指導事項に関しての貴重なお話を聞くことが出来ました。

柏市立中学校の学校給食で平成23年ヒスタミン中毒が発生し保健所が調査し、カジキマグロが特定されたため、その後該当する種類の魚は柏市では給食材料としては入れていないとのお話がありました。質疑応答で、仮に食中毒が発生した場合の給食室の使用停止日数についてがあり、通常0～10日の範囲で決められていて、

発生源の原因を特定でき再発防止策が出来れば3～4日にて再開可能との回答がありました。しかし学校給食で食中毒を出してしまっただけでは多くの子供たちが被害にあうため、食中毒を出さないように再度、学校側と話し合い、私たち学校薬剤師も気を引き締めていこうと思いました。

続いて「学校環境衛生検査基準の解説と主な事後措置について」千葉県学校薬剤師会相談役の金親 肇先生より解説いただきました。学校薬剤師が配置された経緯や歴史などから始まり、実際の環境衛生検査の基準や手順の再確認や千葉市で行われている検査も合わせて解説いただき、他の支部ではここまで自分たちで行っているのかと良い勉強になりました。経緯や歴史なども実習生を受け入れられている学校薬剤師の先生方にとっては参考になったのではないかと思います。時間が許せばもっと皆さん色々なことを質問してみたかったと思いますが、遅い時間からの研修会だったため惜しまれながらも閉会となりました。

今回の「地域サポート学校薬剤師研修会」を通じ、今後も地域ごとの学校薬剤師のつながりや情報交換が出来る場が多く持てると良いと実感いたしました。



講演中の金親 肇先生

## 第5回 薬物乱用防止教育研修会（報告）

千葉県学校薬剤師会  
畑中範子「青少年の薬物乱用の現状と教育の重要性について」教育新聞編集局次長 池田 康文氏  
のご講演より

平成25年8月21日（水）午後1時～豊島区立舞台芸術交流センター「あするすぽっと」に於いて、日本薬物対策協会主催の薬物乱用防止教育研修会が開催されました。

教育新聞編集局次長 池田氏によると、国際化が加速する中で、世界で違法薬物を使用している推計人数は、3億人と言われており、新たにHIVに感染した人の約50%が違法薬物使用者で、アメリカのCNNニュースでは、アメリカの高校生の約35%が大麻吸引経験があると報道されているそうです。アメリカの高校生は、大麻のことをCANNABIS（和訳；麻、大麻）とは言わず、WEED（和訳；雑草）と呼んでいるので、日本の留学生などは、WEEDが大麻とわからず、気軽に使ってしまう危険性があります。

平成25年上半期少年非行情勢について、警察庁生活安全局少年課（今年8月発表）によると、覚せい剤乱用＝59人（昨年同期比 21.3%減）、大麻乱用＝27人（同27%減）麻薬乱用＝5人（同25%増）、シンナー乱用＝24人（同40%減）とのこと。

但し、いわゆる脱法ハーブ、脱法ドラッグについては、この統計の調査項目にありません。

また、「飲酒・喫煙・薬物乱用についての全国中学生意識・実態調査（2012年）研究報告書」【国立精神・神経医療研究センター（今年3月発表）】の全国から抽出した124校の中学生54486人へのアンケートによると、有機溶剤の生涯経

験率は全体の0.5%、大麻の生涯経験率は全体の0.2%、覚せい剤の生涯経験率は全体の0.2%、脱法ドラッグの生涯経験率は全体の0.2%となっており、脱法ドラッグの入手可能性（少々苦労するが手に入る＋簡単に手に入る）は、全体の15.6%（5人に1人）ということになり、脱法ドラッグについて、もっと危機感をもって授業しなくてはいけない。

薬物等に対する意識等調査報告書（文部科学省、平成25年8月）によると、飲酒・喫煙への関心が高いほど、薬物使用について「1回くらいなら」「個人の自由」と考える割合が高く、学習指導要領では、小学校体育の保健領域、中学校体育の保健分野、高校の保健で、薬物乱用について学習することになっていますが、学校種、学年が下がるほど「授業で学んだ」との回答が低くなっています。学習指導要領の記述は、有機溶剤・覚せい剤・大麻が中心で、高校でコカインやMDMAなども入ってきますが、この取り上げ方に、入手可能性の高い『脱法ドラッグ』は、「等」の中に埋没しているのではないかと。ネット社会の急激な進展で、情報伝達の超高速化で情報が簡単に流れしまう怖さがあります。また、その一方で「孤立」化が進み、つながりを求めています。一般的に、3～10回ぐらいやると乱用のように思われてしまいがちですが、1回でも「乱用」であります。

薬物乱用リスク群は、自己効力感や自尊感情が大変低く、自分の存在の確かさを求めている。情動＜エモーション＞をもって心から愛されている＜ラビング＞と実感できる誰か＝エモショナル・プレゼンス ラビング・プレゼンス⇒学習の記憶にも関連しています。